

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

哲学・思想 No.4

ロールズの「正義論」で医療資源配分を読む——無知のヴェールと最弱者優先原理

★ 清光学院の講師は、政治哲学・医療倫理を専門とする大学教員です。ロールズの正義論を医療資源配分・社会保障政策に応用する研究に携わってきた当事者であり、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医療資源配分・社会的公正を問う小論文

「医療資源の公正な配分とは何か」という小論文は医学部で頻出である。ロールズの「無知のヴェール」という思考実験を知っている受験生は、公正の根拠を哲学的に論じられる。

② 「誰を救うか」型の倫理問題

「限られた臓器を誰に移植するか」「ICUのベッドが1つしかないとき誰を優先するか」という問いは医学部面接の定番である。最弱者優先原理という概念を持つ受験生は、倫理的根拠で答えられる。

③ 社会保障・国民皆保険を問う問題

「国民皆保険制度はなぜ必要か」という問いに、ロールズの正義論から答えられる受験生は、制度の哲学的根拠まで踏み込んで論じられる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文）	医療資源配分・公正を論じる問題	ロールズの枠組みが公正論の哲学的根拠を与える
医学部推薦・総合型選抜（面接）	「誰を優先するか」型の倫理的問い	最弱者優先原理が倫理的判断の根拠になる
公衆衛生・保健学部（全般）	医療政策の公正性・社会的正義	ロールズの正義論が政策論議に哲学的深みを与える
法学・社会学系学部	社会正義・分配的正義の理論	医療への応用が正義論の実践的意味を示す

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「弱い人を助けることが大切です」という答えは採点者には「哲学的根拠がない」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）ロールズの正義論・無知のヴェールを自分の言葉で説明できる、（2）医療資源配分問題を最弱者優先原理で論じられる、（3）面接で「誰を優先するか」という倫理的問いに哲学的根拠で答えられる、という変化が起きる。

清光学院の講師陣は、関連する入試問題で「表層的な答案」と「深い理解を示す答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。